

# 鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」は 戦争体験の継承につながるかと信じて

仲内 節子

昨年の夏、私たち「広める会」は久々の武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」全作品展を東京で開催しました。何と432通もの感想文が寄せられ激励されたのですが、「こんな凄い作品を全く知らなかった」と書かれたものがかなりありました。作品と出会って20年、作品を懸命に紹介してきたつもりでした。作者の死という絶望的な状況もありながら、恵泉女学園大学の協力も得られて困難を乗り越えてきたのですが、まだ道半ば、この稀有な作品群を更に多くの方にご覧いただき日本の先の戦争の実相を伝えたいと考えています。

## 私は武田作品から戦争を学んだ

思い出せば20年前、工房で「靴を食う」骸骨の日本兵に出会った時、どんなに驚いたことか。戦場での死の多くが餓死・戦病死だったことは知っていたけれど、軍靴を食わなければならぬほどの飢餓の中で死んでいった人々がいたとは。「手りゅう弾の栓を抜けば数秒で爆発する」などという

ことも、自死覚悟の母子の優しい像から知りました。今なお南の島や海底に日本兵の骨が故郷に還るあてもなく放置されていることも、無謀なインパール作戦の結果「白骨街道」には累々と日本兵の屍が横たわっていたことも、武田さんの造形からリアルに想像できま

した。何よりも、日本中を「捕虜になるな」と縛った東条英機の「戦陣訓」さえ、私たちはよく知らなかった。農耕馬を集めなければ弾薬も糧秣も運べなかった日本の国力の貧しさも、愛馬を手

放した農民たちの涙も作品から学びました。ソ連（当時）の国際法違反の強制労働で日本の敗残兵たちが命を失い凍土に埋葬され放置されたこと、命の綱の飯盒が一緒に埋葬されたこと、米軍の同じく国際法違反の原爆で多くの市民が殺されたこと、沖繩の悲しみも優しく描かれました。それらは何となく知ってはいましたが、生半可な知識を武田作品は粉々にしてくれました。それほど鉄の骨たちは雄弁に戦争を語り、叫んでいました、繰り返すな、と。新品の鉄を切り、焼き溶かし、曲げ、溶接し、と



靴を喰らう兵士



母子像



帰還兵が問う

気の遠くなるような作業。鉄は熱いうちに造形しなければ固まってしまふ、完成しても得心いかなければ壊し、再びの作業に。こうして伝えようとした反戦の思いに打たれます。武田さんの柔和な笑顔と作品から表出している凄まじいエネルギーとのギャップに戸惑いますが、優しいからこそ凄まじい作品になるのです。

### 「焼き場の少年」は僕だ、の意味

ローマ法王がカードにして配っていると聞く「焼き場の少年」と名付けられた写真があります。あるイベントで写真パネルの前に武田さんは「これは僕だ。この少年の

直立不動の姿勢は、僕たちに強制されていたもの。僕と同じくこの子は軍国少年。これは僕」と言うのです。哀しい風景と捉えるだけだった私には少年として戦争をくぐった人に時代の空気を教えていただいたように感じたものでした。敗戦の年に10歳だった武田美通さんは戦場体験を持ちません。それでなぜ日本兵たちの戦争被害を描けるのか。聞けば、子どものころ「兵隊さんを自宅に民宿させたことがあり、その優しかったお兄さんたちは、戦争が終わっても還ってこなかった、それはなぜだろう？」と考え続けてきた、というのです。侵略を担ってしまった日本兵も元は普通のお兄さ

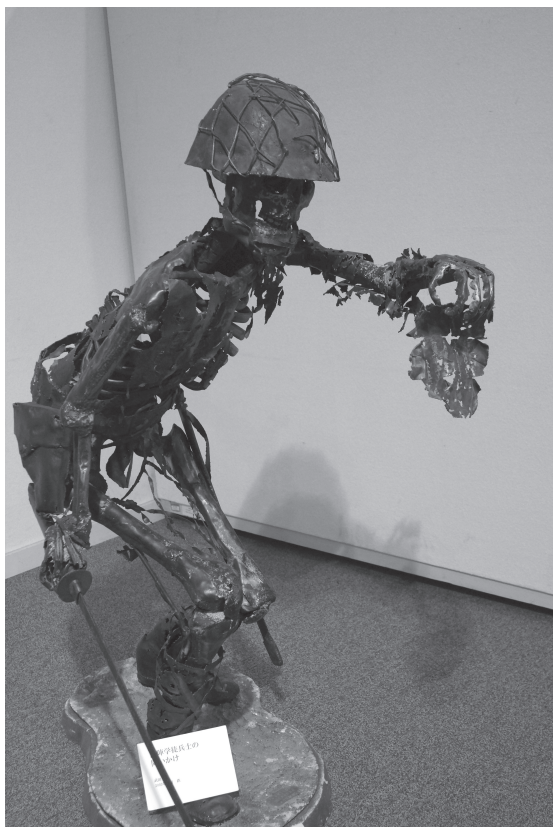
んだったということです。長じて記者になっても索は続けられ、実際に米軍や自衛隊基地の取材も精力的にしていた。米軍基地での実弾が飛び交う訓練の取材は、疑似体験であっても恐怖だったと語っていました。それらすべての体験が凝縮され作品に結実していると言えます。

戦争体験者が少なくなっている今、体験の継承は焦眉の課題です。明文改憲はすぐそこ、解釈改憲はすでに完了したようで、大軍拡も米国の要請どおり進められています。そんな今、武田さんの遺してくれた30作品を広めることは何より戦争体験の継承そのものであり、平和を守れの意思表示で

あると考えています。

## 「時」を逃さず「戦死者たち……」の作品はつくられた

ジャーナリスト生活を定年直前にやめて職業訓練所で溶接を習い資格を得た当初は飾れる作品づくりに取り組み、作品収入もかなりあったようです。転機が訪れたのは、2002年秋頃。日本がまた戦争への道を進みつつあることを察知した武田さんは「こんな作品でいいのか」と自問、あの、戦場から還ってこなかったお兄さんたちの無念を伝える作品づくりに方向を変えたのでした。人には「時」があります。武田さ



学徒兵が問う

んは「時」を逃さなかったのです。「つくらねば」の一心から鉄の骸骨兵が生み出され始めました。収入が無くなることも覚悟したでしょう。そんな時に私たちが武田作品と出会えたのは運命的だったと言えそうです。これは世に出すべき作品と判断し「広める会」をつくり私たちの応援も始まりました。作品展の費用や人手を私たちが提供し、宣伝する……そんな20年の中で、出会った頃には12作品だった連作が武田さんの亡くなった時には30作品になっていました。「みなさんがいなければ続けられたかどうか」と言われたことは嬉しかったのですが、もちろん作者自身の熱い思い無くして珠玉

のような作品群は生まれなかったと思えます。

## いのちの結晶をつぶせない、保存して後世に伝えたい

早朝から運転のバイトで制作費を捻出、昼過ぎから工房にこもる生活となった高齢の武田さんにはきつかったはず。死因が溶接のプロの職業病「大動脈瘤」手術の後遺症だったことは鉄と取り組んだ20年の帰結かもしれません。作品は武田さんの命の結晶です。命を削って戦死者たちの無念を鉄で紡いでくれた、その作品を私たちは守らないわけにはいかないのです。恵泉女学園

### \*武田美通のプロフィール

ただだよしとう、1935年北海道小樽市生まれ。皇国の少年として育ち、国民学校（小学校）1年の時太平洋戦争に突入、4年で敗戦。早稲田大学で社会学を学び日本経済新聞の記者として10年勤務。以降テレビ東京に転身。60年安保取材をスタートに激動の昭和後半を目撃。海外取材を含め36年間のジャーナリスト生活で戦争、国家を追求、米軍海兵隊や自衛隊の取材。60歳を前に造形作家の道へ。当初は音楽家や鳥、花などを造形、400点を越え人気を博した。しかし「戦争をする国」への兆しが見えたとき、テーマ変更を決断。以来15年に及んで「戦死者たちからのメッセージ」を創る。2016年に80歳で没する3カ月前まで制作、連作全30作品を遺した。

（広める会のチラシより）

大学の閉校が決まった今厳しい状況ですが何とか作品を保存し展示しつづけたと考  
え保管場所の提供や資金を求めています。  
でも、まずは多くの方に作品をご覧いた  
だかなくては保存も叶いません。今年4月  
22日から練馬のみなさんとココネリホ  
ールで、8月には3回目の多摩市のみな  
さんの作品展です。ぜひいらしてください。

**白骨街道で倒れていた兵士たちに「国籍」が要るのでしょうか。**

最後に、作品を観た感想文を読むのが何より楽しみだった武田さんがもし読んだらどんなに……と思う感想文を紹介します。

「中国人です。日本に来てもう10年以上。毎日職場に通う道々靖国神社の前を通るとき、もう戦争は終わった、とつくに昔の話になったと自分に言い聞かせます。そうでもしなければ、あの戦争で死んでしまった、殺されてしまった同胞たちへの申し訳なさが胸が引き裂かれそうです。戦争には勝者がいないとわかっているはず。いえわかつているつもりです。それでも、日本人視点からの反戦宣伝にいらだっていました。我が国の人たちがはるかに苦しんでいましたのに、なぜ加害者たちに同情しなければならぬの？ と。でも不思議なことに武田さんの作品に対しては、そのような拒否反

応が起きませんでした。ただ、涙が止まりませんでした。白骨街道で倒れていた兵士たち、そして倒れていく兵士たちに「国籍」が要るのでしょうか。みんなただただ生きていだけではないのでしょうか。「明日は我が身」。戦争は終わっていないのですね。戦争がない世界をつくるのに、私に何ができるのか。(38歳 中国人女性)。

\*連絡先 090-7288-1489 (仲内)  
\*カンパ先 郵便振替 0013-6-630365  
口座名 戦死者たちからのメッセージの会



白骨街道



遺作

(なかうち・せつこ/武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージを広める会」)

「戦死者たちからのメッセージ」

全作品展・inねりま

■2024年4月22日～4月26日 10:00～20:00

■会場：ココネリ・ホール

西武池袋線練馬駅北口（練馬駅に隣接）

■ギャラリートーク

4月22日（月）17:00～18:00 永田浩三さん（武蔵大学教授）

4月23日（火）14:00～15:00 杉田明宏さん（大東文化大学教授）

4月24日（水）14:00～15:00 山田朗さん（明治大学教授）

4月25日（木）15:00～16:00 河合節子さん（全国空襲被害者連絡協議会事務局次長）

◆主催 武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」を広める会

☎090-7288-1489（仲五）

E-mail : okera@kna.biglobe.ne.jp

第二次大戦中、1942年4月から1945年8月にかけて東京は米軍による100回以上の空襲を受け、10万人以上が亡くなっています。1945年3月10日の下町を中心とした「東京大空襲」が有名ですが、4月13～14日の「城北大空襲」、5月25～26日の「山の手空襲」、多摩地区への空襲も40回行なわれました。毎年3月10日を中心に犠牲者追悼の集いが行なわれていますが、「10万人以上」というあいまいな全体数が語られるだけで、一部を除いて、正確な犠牲者の数が示され

東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む活動にご協力ください！  
亡くなられた方のお名前を教えてください！  
読み上げに参加を！

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」実行委員会

2022年 令和4年 3月10日(木) 東京大空襲追悼の集い

# 朝鮮人犠牲者名も読み上げ

## 東京大空襲追悼の集い

2022. 3. 9. 東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む

「金鳳石」河合ゆみさんが東京大空襲の被害者の弟を亡くした。この日の東京大空襲・戦災資料センター（江東区）で開かれたランティアら24人が約2時間が始まり、民間の失われる命がある。77年前の私たちが、一日も早い終息を願う」とあいさし

一晩で10万人が犠牲になった東京大空襲では、日本人だけでなく、朝鮮人も命を落とした。一人ひとりの存在を忘れない、との思いで犠牲者の名を読み上げる集いでは今年、多くの朝鮮人の名が並んだ。当時を知る生存者は、戦争の無残さを改めて訴えた。

「金鳳石」河合ゆみさんが東京大空襲の被害者の弟を亡くした。この日の東京大空襲・戦災資料センター（江東区）で開かれたランティアら24人が約2時間が始まり、民間の失われる命がある。77年前の私たちが、一日も早い終息を願う」とあいさし

集いでは、犠牲者一人ひとりの名前が読み上げられた—江東区

空襲の被害を説明する朴善植さん（横浜市長）

日本人を合わせた1582人